

RRCの「デジタル製品パスポート実証」に Chaintope「Tapyrus」を提供。

データトレーサビリティ、真正性、透明性向上を支援。

株式会社 Chaintope(本社:福岡県飯塚市、代表取締役:正田英樹)は、一般社団法人資源循環推進協議会(RRC)のワーキンググループ3(WG3)が推進するデジタル製品パスポート(DPP)実証事業に、ブロックチェーン技術提供会社として参画いたします。

当社が開発・提供するブロックチェーン基盤「Tapyrus(タピルス)※1」を活用し、DPPにおけるデータの信頼性確保とトレーサビリティの強化を支援します。

背景

持続可能な社会の実現に向け、製品ライフサイクル全体の情報を透明にする仕組みとしてデジタル製品パスポート(DPP)が世界的に注目を集めています。

EUでは2024年7月より「持続可能な製品のためのエコデザイン規則(ESPR)」が施行され、DPP導入が段階的に義務化される予定です。日本企業にとっても、国際サプライチェーンに対応したDPPへの取り組みが急務となっています。

実証事業の内容

本実証事業では、参加企業が保有する再生材の由来や環境負荷などのデータを仮想的なデータスペース上で連携し、DPPを生成します。

Chaintopeは、ブロックチェーン基盤「Tapyrus」により、これらのデータが改ざんされないことを保証し、信頼性と透明性を担保します。

また、消費者向けには再生材を活用した製品の付加価値を可視化し、サプライチェーン企業に対してはアンケート調査を通じてDPPの認知度や導入課題を把握します。

役割分担(主な参加組織)

- ブロックチェーン技術提供:株式会社 Chaintope(Tapyrus)
- 資源循環・DPPプラットフォーム:株式会社 digglue、株式会社 TBM
- データスペース技術:株式会社 RadarLab
- 成形品メーカー/ブランドオーナー:株式会社吉川国工業所
- 国際標準化:信州大学 市川芳明氏
- 政策提言・連携窓口:資源循環推進協議会(RRC)

今後の展望

Chaintope は、本実証で得られた成果をもとに、日本版 DPP 標準仕様の策定や具体的ユースケースの構築に積極的に貢献してまいります。

当社は「Tapyrus」を通じて、安全かつ持続可能なデータ循環の仕組みを提供し、日本企業の国際競争力強化と国際ルール形成への参画を支援していきます。

本ニュースリリースについてのお問合せ先

株式会社chaintope

代表者 : 代表取締役CEO 正田 英樹

本社所在地: 〒820-0066 福岡県飯塚市幸袋576-14 e-ZUKATライバレーセンターB211号室

事業内容 : ブロックチェーンテクノロジーカンパニー

URL : <https://www.chaintope.com/>

メール: info@chaintope.com

※1 Tapyrus(タピルス)

Chaintopeが開発するエンタープライズ向けのパブリックブロックチェーンです。

Tapyrusは、複数の法人で共同運営するコンソーシアムの方針に合わせて、新しい記録を分散台帳に書き込む際のルールを設計でき、かつ公開されているオープンソースソフトウェアを利用して、誰でも自由に分散台帳を閲覧できる透明性をあわせ持ちます。開発者はTapyrusの各種サービス(特許技術を含む)を利用し、ブロックチェーンの複雑な要素技術を意識する事なく、安全で高信頼のアプリケーションを開発することができます。

各業界のエンタープライズ向けにブロックチェーン技術を協力して社会実装するパートナー企業を募集中です。

なお、Tapyrusの機能は、Trusted Web推進協議会が検討を進めるTrusted Web ホワイトペーパーに準拠して開発していきます。

Tapyrusは株式会社chaintopeの登録商標です。



株式会社chaintope について

あらゆる情報がデータ化されていく社会。「そのデータは信じるに足るものか？」と問われる中、ブロックチェーン技術のグローバルリーダーとしてこの問いに立ち向かい応えていくため、ブロックチェーン「Tapyrus(タピルス)」を開発し、社会への実装を進め、データ社会に信頼をもたらすことを使命としております。データを透明化することで誰もが安心して活用できるようにし、ビジネスから社会構造までの変革の実現のため、ファーストペンギンとして、共に道なき道を楽しむスピリットを胸に日々邁進してまいります。

ホームページ: <https://www.chaintope.com>